

PRAEVIDENTIA DAILY (8月22日)

昨日までの世界：米指標上振れと議事要旨でドル全面高

昨日は、FOMC 議事要旨発表を控え米資産購入プログラム縮小開始への懸念からアジア・欧州時間からドルが対主要通貨で堅調に推移した後、米中古住宅販売件数が 539 万件と前月（506 万件）および市場予想（515 万件）を大きく上回ったほか、FOMC 議事要旨でも年内の資産購入プログラム縮小方針に対し、より具体的な縮小計画は示されなかったものの、ほぼ全参加者（almost all participants）が概ね支持していることが判明したことから、次回 9 月 FOMC での資産購入縮小開始の可能性が現在市場で織り込まれているより高まったとの見方から、米長期債利回りの上昇と共にドルが対主要通貨で続伸した。ドル/円相場も、東京時間は日経平均の下落に引っ張られる局面は見られたもののじり高が継続し、一時 97.98 円と 98 円手前へ上昇した。豪ドルは、米金利の相対的上昇幅の大きさと米株安もあって続落し、対米ドルで 0.90 ドルを下回ってきている。ユーロやポンドも対ドルで下落したが、前日の大幅上昇前の水準は上回っており、現在のところ底堅さは維持されている。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と主な変動要因

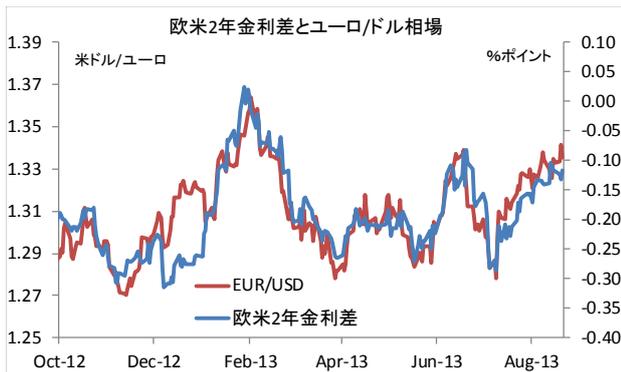
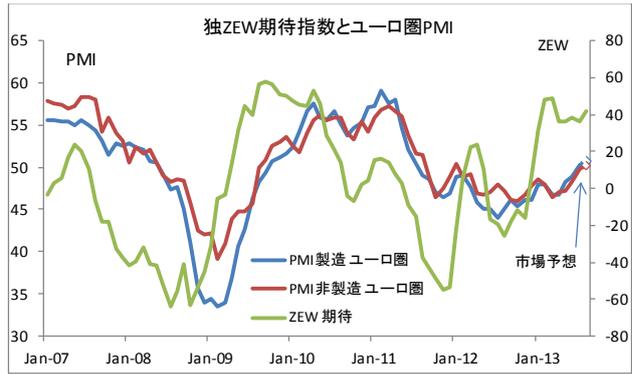
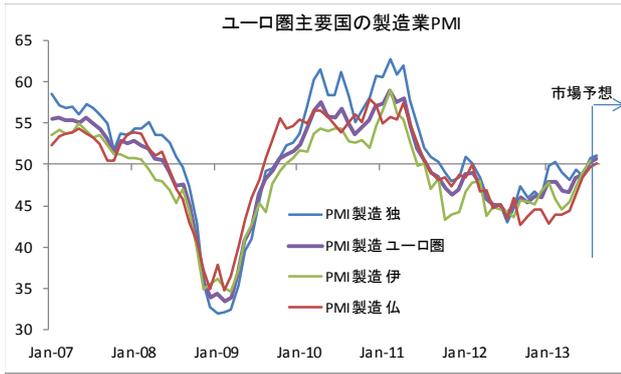
	変化率	米2年金利差	米2年金利	日2年金利	米10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.4	+0.02	+0.03	+0.01	+0.09	+0.08	-0.01	-0.6	+0.2	-1.1	-0.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.5	+0.02	+0.04	+0.03	-0.05	+0.03	+0.08	-0.3	-0.6	-0.3	+0.03
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-1.1	-0.03	+0.00	+0.03	-0.08	-0.00	+0.08	-0.7	-0.6	+0.0	-0.7
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-1.7	-0.04	-0.02	+0.03	-0.09	-0.01	+0.08	-0.7	-0.6	+0.0	-0.7
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.0	+0.00	+0.03	+0.03	-0.05	+0.03	+0.08	-1.0	-0.6		

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの「高慢な偏見」：ユーロ/ドルは ECB が動かす

本日の相場材料としては、①中国 8 月 HSBC 製造業 PMI (10 : 45、前月 47.7、市場予想 48.2)、②ユーロ圏 8 月 PMI (フランス分 16 : 00、ドイツ分 16 : 30、ユーロ圏分 17 : 00、ユーロ圏製造業分前月 50.3、市場予想 50.7)、③米新規失業保険申請件数 (21 : 30、前週 32.0 万件、市場予想 33.0 万件)、などがある。カンザスシティ連銀主催のジャクソンホールシンポジウムが 24 日までの日程で始まるが、米欧英中銀総裁欠席で注目度が低下しているほか、本日関連ニュースが出てくるかは不明だ。

ユーロ圏では足許景況感の改善が続いており、既に発表されている独 8 月 ZEW 期待指数と整合的なかたちで、ユーロ圏各種 PMI も総じて前月比改善が予想されている(下図参照)。ユーロ/ドル相場と欧米金利差の関係をみると、5 年物や 10 年物よりも 2 年金利差との連動性が非常に高いのが特徴となっており、しかも、ドイツと米国の 2 年債利回りの動きをみるとドイツの方が変動幅が大きく、欧米 2 年金利差、ひいてはユーロ/ドルは主にドイツ 2 年債利回りの変動により上下しているといっても過言ではない(下図参照)。米国では量的緩和縮小期待の高まりから長期債利回りは上昇基調となっている一方、2 年程度の期間では FF 金利見通しの影響がより大きく、量的緩和縮小開始でも FF 金利は 2015 年初頃までは据え置かれる可能性が高いことから米 2 年債利回りは大幅に上昇する訳ではない。他方、ユーロ圏でも、景況感は改善しつつあるとはいえマイナス成長・非常に低水準からの持ち直し段階にあり、目先の金融政策変更につながる訳ではない。もっとも、ごく最近でも独連銀が月報で、ECB のフォワードガイダンス(長期に亘り政策金利は現行水準かそれ以下に留まる)は利上げを排除するものではないとするなど、タカ派が盛り返す兆しも垣間見えている。こうした中、ユーロ圏 PMI の更なる改善が ECB の将来の利下げ期待の後退を通じて独 2 年債利回りとユーロ/ドルを押し上げる可能性があるだろう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。